



ごあいさつ

平素より瀬戸信用金庫に格別のご愛顧を賜りまして、誠にありがとうございます。

本年も引き続き皆さまに安心してお取引いただけるよう、当金庫の現況と経営内容を開示した「せとしんディスクロージャー誌2026」を作成いたしましたので、ご高覧いただき、当金庫へのご理解をより一層深めていただければ幸いです。

令和7年度の国内の経済は、物価上昇や人手不足などの課題を抱えつつも、賃上げや企業の設備投資の増加などを背景に、緩やかな回復基調を維持しました。

金融面では、日本銀行が令和7年12月に0.25%の利上げを実施し、政策金利は0.75%となりました。また、日経平均株価については大きく上昇いたしました。一方、ウクライナ戦争の長期化、米国の関税引き上げなどの影響が続くなか、中東情勢の緊迫度が増すなど、国際情勢は不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当金庫は、地域・お取引先とともに歩み、地域・お取引先・当金庫の「三方よし」の実現に取り組んでまいりました。

令和7年度末の預積金残高は2兆2,367億円、貸出金残高は1兆1,478億円となりました。

収益面は、本業の収益を示すコア業務純益は45億円、経常利益は38億円、当期純利益は28億円という業績でありました。

当金庫は、令和8年度から「第13次中期経営計画」をスタートさせました。引き続き、「地域とともに」をビジョンに、地域・お取引先・当金庫がともに成長・発展できる「三方よし」の実現を目指し、地域金融機関として、長年培ってきた地域のみなさまとの繋がりを礎に、「地域社会の発展」と「お取引先の繁栄」に貢献してまいります。

これからも「地域になくてはならない信用金庫」であり続けるため、役職員が一丸となり業務に取り組んでまいります。

今後とも何卒、倍旧のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

令和8年7月

理事長

綿垣孝幸